

2026年4月1日

〇〇株式会社  
代表取締役●●様

ウータン・森と生活を考える会  
プランテーション・ウォッチ  
熱帯林行動ネットワーク  
マイティ・アース  
「環境・持続社会」研究センター (JACSES)  
泊みゆき (バイオマス産業社会ネットワーク理事長)

## 東京ガス株式会社及び阪和興業株式会社に対して ESG エンゲージメント及び投融資の見直し (ダイベストメント) を求める要請書

貴社におかれましては、責任ある金融機関として、持続可能な社会の実現に向け、ESG 投融資を推進されていることと存じます。私たちは、森林保全と気候変動対策の強化を求めて活動する環境 NGO です。

私たちは、阪和興業株式会社 (以下、阪和興業) がインドネシア・スラウェシ島の熱帯林を伐採して進めているペレット生産事業と、東京ガス株式会社 (以下、東京ガス) がそのペレットをバイオマス発電所の燃料としていることについて、熱帯林と生物多様性の破壊、地域社会への深刻な影響という観点から、深く憂慮しています<sup>1</sup>。

私たちは、公開情報等に基づき東京ガスまたは阪和興業の株主・融資銀行と考えられる貴社に対し、下記理由 1~6 により、両社に対する ESG エンゲージメント (環境・社会・企業統治に配慮するよう対話と働きかけを行うこと) を要請いたします。また、十分な改善が確認されない場合には、投融資の見直し (ダイベストメント) を含む責任ある対応をご検討いただくよう求めます。

### 【対象事業】

阪和興業：インドネシア・ゴロンタロ州で進める木質バイオマス発電向けペレット生産事業  
東京ガス：上記ペレットを使用する富山県・伏木万葉埠頭バイオマス発電所

### 理由 1：貴重な生態系の不可逆的な喪失、ネイチャー・ポジティブへの逆行

スラウェシ島は、世界的に重要な熱帯林が広がる生物多様性のホットスポットであり、独自の地形と隔離された環境により霊長類をはじめ多くの固有種 (その地域にしかいない希少な種) が生息しています<sup>2</sup>。

阪和興業が 20%出資するゴロンタロ州の木質ペレット生産事業者ビオマサ・ジャヤ・アバディ社 (BJA) と、ペレットを調達しているゴロンタロ・パネル・レスタリ社 (GPL) では、熱帯林を皆伐してペレットを生産し、その後プランテーションへの転換を行っています。

<sup>1</sup> 阪和興業と東京ガスに宛てた、スラウェシ島のペレット生産・調達に関する公開質問要請書 (2025年10月27日)

<sup>2</sup> ファクトシート：「進化の実験室」スラウェシ島の生物多様性と森林減少 ―木質バイオマス (ペレット) 生産のリスクとは?―

IUCN レッドリストによると、それらの伐採地域は少なくとも **17 種の絶滅危惧種と 5 種の準絶滅危惧種の生息地と重なっている恐れがあります**<sup>3</sup>。BJA の伐採エリアによる熱帯林の皆伐は年間 1,500 ヘクタール（平均 1 日 4 ヘクタール）に及びます。

これは現在企業に求められている **ネイチャー・ポジティブへの取組みに明らかに逆行**するものです。このような生物多様性の損失は、現在多くの金融機関が参加している TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の観点からも重大な **ネイチャーリスク** と考えられます。

阪和興業や東京ガスに対する貴社の投融資が、熱帯林破壊に加担している恐れがあります。この絶滅危惧種の宝庫である森林とその生態系を守るために、早急な対応が求められます。

## 理由 2：気候変動対策としての不適格性と「炭素負債」のリスク

一般に木質バイオマス発電は「カーボンニュートラル」と誤解されがちですが、本事業のように天然林の伐採・燃焼を伴うプロセスは、実際には **大気中の CO<sub>2</sub> を大幅に増加**させる可能性があります。

樹木が数十年かけ蓄積した炭素は、**燃焼により大量に放出**されます。再植林による吸収でこれを相殺するには **数十年～百年以上の時間を要し、パリ協定や、2030 年までに求められる大幅な排出削減、2050 年ネットゼロのタイムスパンと全く整合しません**。

また、**天然林の皆伐による土壌炭素の損失**を加味すると、GHG 排出が激増し、実質的な排出強度は石炭火力発電を上回るリスクがあり、パリ協定との整合性が著しく欠如しています。

GHG プロトコルや SBTi (Science Based Targets initiative) に従えば、土地利用の変化を伴うバイオマス燃料の利用による排出は厳格な排出量算定が求められ、貴社の投融資先の排出量を大幅に増やすこととなります。

## 理由 3：地域住民の生活基盤の破壊と人権リスク

BJA に木材を供給する伐採地は、**河川上流の重要な集水域**であり、下流住民にとって不可欠な「水源の森」です。近年の伐採の急速な拡大により、すでに **水源への悪影響や洪水被害の増加**が報告されており、安全な生活を脅かしています。

また、森林は農地を持たない住民にとって、ハチミツ、ラタン（籐）、サトウヤシ、薬草、野生鳥獣肉など **多様な森の恵み（非木材林産物）**を得る **重要な生活の糧**でした。こうした伝統的な生計手段を奪う開発や、**住民の合意形成（FPIC）が不十分**なまま進められる開発は、国際的な「ビジネスと人権」の基準に抵触し、貴社の人権尊重に関する方針等とも矛盾するものです。

## 理由 4：経済産業省の専門家ワーキンググループも求める「原生林等の保護」や「生物多様性の保全」

経済産業省のバイオマス持続可能性ワーキンググループでは、2025 年度に、輸入木質バイオマス燃料の持続可能性の証明方法について議論されました。その中で、「原生林等の保護価値の高い土地が植林地に転換されないこと」や「希少種や絶滅危惧種の生息地など高い保護価値を有する地域を特定し、これらを保護・管理するための計画が策定され、実施される」ことなどが参考基準として整理されました。

これらの基準に照らせば、阪和興業がゴロンタロ州で生産した木質ペレットは FIT の支援対象外となるはずですが、**確認方法が「認証の取得」や「個別企業等の独自の取組」（自己宣言）に依存しているため、実際には現場の環境破壊・地域社会への悪影響を防ぐことができていません**。事業者の自己宣言のみに依存した評価を再考し、両社の株主・投資家

<sup>3</sup> 「参考情報：スラウェシ島ゴロンタロ州の絶滅危惧種の生息状況」

として、独立した立場からの厳格なデューデリジェンスとエンゲージメントの実施を求めます。

### 理由5：責任投資原則（PRI）のレポートでも提言されている対応

サステナブル投資家の国際ネットワークである責任投資原則（PRI）が、EU のバイオエネルギー政策・投資のリスクを分析したレポートでは、「下記のような持続可能でない方法で収穫を行うバイオマスのサプライヤーを排除するよう、サプライチェーンの監査を行うこと」を提案しています。

- ・天然林や、湿地や泥炭地など炭素蓄積量の多いその他の脆弱な生態系からの収穫
- ・自然の生態系（森林、草地、または湿地）の管理林や人工林への転換
- ・種類を問わずあらゆる森林（天然林、管理林、または人工林）の皆伐
- ・バイオエネルギーのみを目的とした収穫

### 理由6：広範な市民の反対とレピュテーションリスク

ウータン・森と生活を考える会が呼びかけている国際オンライン署名「熱帯林をバイオマス発電のために燃やさないで！～東京ガス・阪和興業はスラウェシ島の天然林を破壊する木質ペレットの使用をやめてください～」（<https://t.co/0jZ953uHxM>）には、9,500 人を超える方からの署名が集まっています。

これらは、貴社の顧客やステークホルダーを含む、世界中の市民・消費者の直接的な声であり、森林破壊と人権侵害を伴うエネルギーを「再生可能」とは認めないという断固たる意志の表れです。また、近年の燃料高騰や円安により、輸入依存型のバイオマス発電は事業継続性が危うく、将来的に座礁資産化するリスクが極めて高いと言えます。

#### 【オンライン署名における要求事項】

- ・熱帯林や天然林由来のバイオマス燃料の製造・使用・調達を即時に中止してください。
- ・既に伐採された熱帯林・天然林について、元の生態系を回復する行動を取ってください。
- ・海外の木質バイオマス燃料を燃やす誤った「再エネ」ではなく、森林破壊・劣化の無い再エネ事業を進めてください。

#### 【ご回答のお願い】

本要請書の内容を踏まえ、貴社がこれまでどのような ESG エンゲージメント（対話）を行ってきたか、また、両社や当該事業への投融資の継続可否（ダイベストメントの検討状況）について、以下の通り書面にてご回答をいただけますようお願い申し上げます。継続される場合には、その具体的な理由と科学的・客観的な根拠を併せてお示しください。

ご回答期限：2026 年 4 月 30 日（木）まで

ご返信先：ウータン・森と生活を考える会（担当：石崎 090-8145-1146）

メールアドレス：[contact-hutan@hutangroup.org](mailto:contact-hutan@hutangroup.org)

※書面を PDF にてお送りいただけますと幸いです。

※書面でのご回答が難しい場合は、オンライン等での対話も可能です。

## 【本要請書をお送りした金融機関一覧】

### ■ 日本

年金積立金管理運用独立行政法人	株式会社三井住友フィナンシャルグループ
野村ホールディングス株式会社	三井住友トラストグループ株式会社
大和アセットマネジメント株式会社	第一生命ホールディングス株式会社
株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ	MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ	農林中央金庫
日本生命保険相互会社	りそなアセットマネジメント株式会社
T & Dアセットマネジメント株式会社	中銀アセットマネジメント株式会社

### ■ 海外

FlexShares Trust	Virtus Investment Partners, Inc.	Global Funds Management S.A.
Crédit Agricole S.A. (Amundi)	Thrivent Financial for Lutherans	St. James's Place plc
Legal & General Group plc	Kommunal Landspensjonskasse	AllianceBernstein L.P.
DekaBank Girozentrale	Deutsche AXA S.A.	Schroders plc
The Goldman Sachs Group, Inc.	Deutsche Bank AG	FMR LLC (Fidelity Investments)
California State Teachers' Retirement System	T. Rowe Price Group, Inc.	Dimensional Fund Advisors
The Vanguard Group, Inc.	JPMorgan Chase & Co.	BlackRock, Inc.
State Street Global Advisors	Norges Bank Investment Management	The Bank of New York Mellon Corporation
American Century Companies, Inc.	The Charles Schwab Corporation	WisdomTree, Inc.
CI Financial Corp.	The Bessemer Group, Incorporated	Empowered Funds, LLC
Zuercher Kantonalbank	Commonwealth Bank of Australia	Causeway Capital Management LLC
Hennessy Advisors, Inc.	Van Eck Associates Corp.	UBS Group AG
Teachers Insurance and Annuity Association of America	Marsh & McLennan Companies, Inc.	Brinker Capital Investments, LLC
Elliott Investment Management L.P.	HSBC Holdings plc	BNP Paribas SA
Franklin Resources, Inc.	AMP Limited	Prudential Financial, Inc.
Invesco Ltd.	Northern Trust Corp.	1832 Asset Management LP
Storebrand ASA	Artisan Partners Asset Management Inc.	Geode Capital Management, LLC
Asset Value Investors Ltd.	Kingdom of Sweden (AP funds)	AQR Capital Management, LLC
Royal Bank of Canada	Mutual of America Capital Management LLC	Credit Suisse Group AG

## 【参照資料】

- 東洋経済オンライン「熱帯林皆伐によるバイオマス発電用の木質燃料が日本や韓国に輸出。インドネシア・スラウェシ島に見る、持続可能性の危うさ」（2026年3月2日、日本語のみ）  
<https://toyokeizai.net/articles/-/934974>
- PRI ポリシーレポート「欧州連合（EU）のバイオエネルギー政策と投資が気候と自然にもたらすリスクへの対応」（日本語訳）  
<https://www.gef.or.jp/news/info/250718pripolicyreport-japanese/>
- ファクトシート：「進化の実験室」スラウェシ島の生物多様性と森林減少 ―木質バイオマス（ペレット）生産のリスクとは？―  
[https://www.gef.or.jp/wp-content/uploads/2025/12/factsheet\\_sulawesi\\_biodiversity\\_biomass.pdf](https://www.gef.or.jp/wp-content/uploads/2025/12/factsheet_sulawesi_biodiversity_biomass.pdf)
- 参考情報：スラウェシ島ゴロンタロ州の絶滅危惧種の生息状況  
<https://hutangroup.org/archives/5987>
- 阪和興業と東京ガスに宛てた、スラウェシ島のペレット生産・調達に関する公開質問兼要請書（2025年10月27日）（英訳あり）  
<https://hutangroup.org/archives/5987>

## 【国際オンライン署名】

「熱帯林をバイオマス発電のために燃やさないで！

～東京ガス・阪和興業はスラウェシ島の天然林を破壊する木質ペレットの使用をやめてください～」



背景画像©Forest Watch Indonesia

9,592名の賛同（2026年3月16日付け）

<https://c.org/PLQGkQfbVn>

